

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-5-3 Uターン促進
---------	-------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 しまね暮らし推進課長 仁科 慎治郎 電話番号 0852-22-6179

事務事業の名称	ふるさと島根定住推進事業（田舎ツーリズム推進事業）		
目的	(1) 対象	県内の民間団体やグループ	
	(2) 意図	都市等と農山漁村との体験交流や地域活性化に向けた活動が活発に行われる。	
事業概要	しまね田舎ツーリズム推進協議会を中心として、農山漁村における体験交流実践者等の活動の充実や連携、発信を図り、地域全体での都市等と農山漁村との体験交流を推進する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 しまね田舎ツーリズムの体験施設数	目標値	298.0	311.0	324.0	337.0	350.0	施設
		取組目標値						
	式・定義 加入施設の数（田舎ツーリズム協議会による集計）	実績値	242.0					%
		達成率	81.3	-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
		達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	17,314	32,687
うち一般財源 (千円)	15,111	17,460

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・しまね田舎ツーリズム推進協議会への加入施設数は、H26末：281施設→H27末：242施設に減少。（隠岐民泊施設の退会等による減：高齢化で対応困難、消防法改正による火災報知器設置義務化等）
- ・一方、各種研修会の開催や情報発信（ポータルサイト、情報誌等）の強化により、新たに加入した体験施設数や体験者数は増加傾向。農山漁村の活性化や地域経済の活性化に成果をあげている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・田舎ツーリズムは、「地方への流れ」を生み出す有効な手法（例：平成17年以降、田舎ツーリズムをきっかけにした定住者120名以上）
- ・平成26年度には「しまね田舎ツーリズム10周年記念キャンペーン」を、平成27年度には「しまね田舎ツーリズムキャンペーン2015」を開催し、都市農村交流を促進。兩年とも延べ2,000人の方に参加をいただき、都市から地方への人の流れに一定の成果をあげている。
- ・県内の認知度が向上したことにより、観光や空港の誘客対策との事業連携が進みつつある。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・受入先が減少している地域もあり、今後この流れは加速するものと予測（例：隠岐民泊施設：[H17]140軒 → [H27]76軒）
- ・インバウンド対策が遅れており、外国人の受け入れ態勢が十分でない状況

②困っている状況が発生している「原因」

- ・実践者の高齢化、若者の参入が少ない。
- ・外国人観光客の増加

③原因を解消するための「課題」

- ・新規の実践者の開拓が必要
- ・年配の実践者が多い中、外国人対策が個人で対応できない。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・新規実践者の開拓のため、現在行っている研修会の内容を充実するほか、立ち上げの支援を行う。
- ・地域をモデル的に取り上げ、集中的な研修やモデル事業を実施し、成功事例を県内に拡散させていく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）